

2020年S Semester / S1・2タームにおける授業のオンライン化準備のお願い
(改訂版)

1. はじめに

ご存じのとおり、新型コロナウイルス COVID-19 による新型肺炎が世界的に流行しており、3月11日にはWHOからパンデミック宣言がなされました。本学におきましても、3月17日の教育運営委員会において、新型肺炎の感染防止策として全学的にオンライン授業を取り入れることが決定されました。総合文化研究科・教養学部においても、学内の先生方にはすでに前期運営委員会、総務委員会、教授会などで言及いたしましたとおり、オンライン授業の可能な限りの導入を行う必要が生じております。本文書ではこれについてご説明いたします。

2. オンライン授業の導入について

オンライン授業導入に関しては、すでに皆様方から懸念事項が伝えられております。本学が高い教育水準をこれまでに維持できたのは、ほかならぬ、先生方の対面授業への情熱とノウハウのゆえであることは、このたびの調査・検討を通じても痛感させられた次第です。そのため、研究科長室でも、授業開始時期の延期や、可能な限りの対策を行ったうえでの対面授業の実施など、あらゆる観点から方策を模索しました。

しかしながら、現在の感染速度を遅延させる公衆衛生政策では流行収束に相当の期間が必要であり、たとえ授業開始を延期した場合でも対面授業の再開の目処が立てにくいこと、さらには、他大学にはない本学特有の事情として、前期課程では進学選択のスケジュールを考えると2週間までしか延期できず、その場合でもお盆時期まで試験期間が継続し、夏季休業中に行われる理系大学院の入試・採点期間と重なってしまうことなど、問題が多いことがわかりました。

また、授業に出席した学生や教員に発症者が出た場合、あるいは政府により緊急事態宣言が出された場合などは、対面授業だけで乗り切ることができなくなります。万一S Semesterの大半が開講不可能になった場合、学生の将来に大きく影響し、場合によっては再来年度の新入生受け入れさえも困難になる事態が想定されます。このようなリスクはどうしても避けなければなりません。高リスク年代層もいる教職員の感染防御や、健康的に脆弱な学生に対しても、十分な配慮を行う必要があることは言うまでもありません。

さらには、4月の時点で日本に戻ることができない、あるいは戻ってもすぐに自宅から出ることができない留学生や教員が少なくないことも判明しております。

以上の理由から、本研究科・学部においても、教員の皆様の多様なご意見を考慮しつつも、4月6日開始の学事暦は変更せず、可能な限り全面的にオンライン授業が可能な態勢を整えるべく、先生方のご協力をいただきたいと思いますと考えております。

オンライン授業には懸念が多いことから、履修者数等に応じたオンライン・対面の混合態勢も検討いたしました。しかしながら、それではキャンパス内の人口を極力減らす観点からは効果が薄くなりますし、また、のちほどご説明する理由によりオンライン授業は原則として自宅で受講することになるため、教室までの移動時間により直近のコマが履修できなくなるという大きな問題が発生することがわかりました。したがって、オンラインにする場合は、可能な限りの授業を、前期課程から大学院まで一律にオンライン化する予定です。

3. 準備のお願い

もっとも、このたびのお知らせは、すべての授業を即時にオンライン化することをお伝えする趣旨ではございません。状況を直前まで見極めながら、場合によっては即座にオンラインに切り替えられる準備を行うことについて、ご理解いただくことをお願いする趣旨です。こうした態勢を整えておくことによって、感染に注意しながらも対面授業を行うことで教育効果を無理のない日程で最大化し、また早くに授業に接したい学生の気持ちになるべく応えることができると考えております。

実際にどのような形で運用するかについては、皆様から頂いたご意見を総合し、できる限り実現性の高い方法を検討しております。3月23日以降、オンライン授業に関する講習会を非常勤の先生を含めキャンパス内とオンライン双方で複数回行い、ご用意いただくハードウェアと無料で提供させていただくソフトウェアについてご案内させていただきます。情報通信技術に通じておられない方でも理解しやすいマニュアルも、まもなくご用意できます。英語でのご案内もいたします（具体的な方法として現時点で実現可能な状態になっているものにつきましては、本文書末尾でお示しいたします）。先生方には、全員、これらの講習に（オンラインでも構いませんので）ご参加いただくことを切にお願い申し上げます。

3月18日の臨時総務委員会での審議結果を受け、4月入学予定者・保護者の方と在学学生に対し、3月19日に、オンライン授業に備えてコンピューターやネット環境整備の事前準備を要請する文書を発出いたしました。これは学生が機器を調達することなどに一定の時間的猶予を与えるためです。研究科・学部の最終的な意思決定については、3月中に、臨時教授懇談会の開催またはその他の形で、皆様のご了解を得たいと考えております。ご了解が得られたら、速やかにご案内を差し上げます。

研究科長室では、教員・学生の皆様の健康を第一に考えつつも、同時に、年間を通した皆様のご負担や学生の教育効果の低下防止といった観点も重視しております。オンライン教育は、先生方に新たなご負担を少なからずおかけするうえに、対面教育に比して教育効果が劣ると考えられる、あるいはオンラインでは不可能なものがあるなどのデメリットもあります。状況によっては初回からオンライン化を余儀なくされる事態も十分に考えられますが、特に学生間のネットワーク形成や教員との信頼醸成、オンラインになった際の打ち合わせの機会設定などの観点から、最初に対面の機会を設けることの意義はとりわけ高いはずです。そのため、対面授業実施の可能性は直前まで探ってまいります。先生方のオンライン対応のため

の猶予はさることながら、中国での生産が滞っているために PC が学生にすぐに行きわたらない状況や、ネット開通が間に合わない状況も想定されることから、オンライン開始まで、できるだけ時間を長くとりたいとも考えております。もちろん、そのことによって実際に感染クラスタが本学において形成されることは絶対に避けなければいけません。

4. 今後の見通し

以上を勘案し、本日の段階でそれなりに可能性のあるシナリオとしては、以下を検討しております。実際にどのような形態・タイミングでオンライン授業を実施するかについては、3月中にご案内できる見込みです。

- ・初回と第2回：換気・手洗い・教員のマスク着用を徹底したうえで、対面で初回と第2回それぞれ同じ授業を行い、何らかの基準で2等分した学生をそれぞれに振り分けることで、キャンパスの人口を半減させる。
- ・第3回から、状況によっては全面オンライン化を実施し、その後の推移によって数週間から数か月ののちに対面授業に復帰。
- ・実質的に1回が休講となることについては、補講のほか、オンライン授業の授業日外実施や課題対応等に対応する。
- ・体育実技や実習・実験も原則としてオンライン授業に移行する。
- ・不測の事態が多く考えられることから、成績評価については柔軟に対応する。

以上のシナリオは、現状が以下に掲げるステージ・イエローに該当するとの判断から導かれたものです。感染拡大の状況に応じてステージを設定し、そこにおける対応を次のとおり決めました。

【対面・オンライン切り替えの判断にかかわる状況の目安】

上述のとおり本文書発出時（3月20日）の状況はステージ・イエローに該当しますが、ステージ・オレンジやレッドに急変する可能性も十分ありますので、大変恐縮ではございますが、早めのご準備をお願い申し上げます。

〈緊急事態宣言に基づく知事の外出自粛要請・学校施設使用停止要請があった場合〉

→ ステージ・レッド

ほぼ全ての学生の登校を禁止する。サークル活動・課外活動も禁止。

〈教養学部前期課程・後期課程・大学院の学生や、教職員に複数の感染者が出現し、出校停止状態になった場合〉

→ **ステージ・オレンジ**

対面授業は極力避け、学生実習や体育実技なども原則的にオンライン授業とする（後期課程・大学院の実習・実験など一部の授業を除く）。キャンパス内のサークル活動・課外活動は原則的に禁止だが、やむを得ない理由でキャンパス内施設を利用する場合は事前に申請して許可を受けること。

〈現在と同程度の発症者数が継続している場合〉（具体的には新規感染者増加数が一日あたり数十名～200名未満で安定的に推移している水準である場合）

→ **ステージ・イエロー**

当初2回は、感染防御に配慮しつつ、対面型授業または課題演習を中心とし、適宜オンライン授業に移行する。その場合、後期課程・大学院の実習・実験など一部の授業を除き、学生実習や体育実技なども原則オンラインとする。キャンパス内のサークル活動・課外活動については、多人数が集まる集会などはできる限り自粛すること。

〈感染症拡大がほぼ収束した状況〉

→ **ステージ・グリーン**

従来の対面型授業を中心とする（オンライン授業も併用する可能性がある）。課外活動等も通常どおり。

なお、上記の判断基準は、駒場キャンパスの設備や人口密度などの諸条件を加味した本学部・研究科独自の判断に基づくものであり、実際の感染状況の深刻さや他キャンパス・他大学の判断とは直接関係しないものであることを申し添えます。

5. 参考情報

以下、主に技術的な観点からの参考情報を掲載いたします。

【本キャンパスにおけるボトルネックとそれに伴うオンライン授業実施の形態】

- ・本キャンパスでは、UTokyo WiFi と Eduroam の無線インターネットが使用可能ということになっておりますが、全般的に、動画配信・ダウンロードには不足する容量にとどまっております。建物によってはそもそもほとんど入らないところもございます。こうした理由から、空き教室での学生の聴講も、先生方からの発信も現実的ではありません。
- ・したがいまして、原則として、学生は自宅からの聴講、専任の先生方は研究室もしくはご自宅、非常勤の先生方はご自宅ないし本務校、あるいは窓口となっている先生方のご協力を得てキャンパス内に場所をご用意いただくこととなります。

- ・ただし、移動の関係で駒場付近でなければご開講が難しい非常勤の先生に対しては、専用ブースをご用意する予定です。
- ・自宅でネット環境が間に合わなかった学生については、情報教育棟の PC など、学内の設備を提供する予定ですが、間隔を空けた利用になるなど、数は限定的になりますので、該当する学生に対する教育機会や成績評価についてご配慮願います。
- ・PC や周辺機器については、大学ないし研究科本部が持っている数少ないものについては学生への貸与を主に想定しておりますので、先生方については、恐れ入りますが、ご所属の専攻や部会等（非常勤の先生の場合は窓口となっている先生）へのご相談をお願い申し上げます。

【オンライン授業システム：以下の3点セット】

- 1) 高速インターネットに接続された PC、マイク、ヘッドホン（イヤホン）、カメラ
- 2) Zoom (Web 会議システム)

非常勤の先生方を含めた、教員全員分のアカウントを発行済みです（講習会やマニュアルでご案内する ECCS クラウドメールに招待メールが届いており、すでに使用可能な状態になっております。ECCS クラウドメールをお使いでない方は、そちらのアクティベートもお願いいたします）。学生は先生が UTAS に貼り付けるリンクをクリックすることで参加できます。主な機能は以下の諸点です。

(ア) 講義の生中継と録画（録画は教員の側で制御できます）

(イ) 500 人まで（一部さらに大人数に対応）お互いに顔を見ながらの同時通話（技術上は全員が一斉に話をして一斉に聞くことが可能；例：挙手機能もあり、指名した学生が発言することができる。ゼミでの議論も可能）

(ウ) チャットの並行（例：教員の間違いを、学生が教員の話をおおることなく文字で伝えられる。ネットの URL を即座に伝えられ、簡単な板書代わりに）

(エ) 教員の PC 画面の提示（例：板書の代わりに Word に打ち込んで提示したり、一緒に画像や動画を見たりできる。ホワイトボード機能もあり、学生と同時に書き込むことができます。）

(オ) ファイルの共有

(カ) グループディスカッション（オンラインでつながっている学生がいくつかのグループに分かれてそれぞれ議論ができ、教員は議論をモニターすることができる）

(キ) ネット接続に制約の多い中国からも接続可能です。

(ク) 背景は任意の画像に変更できるため（ただし、PC の動作環境によっては変更できない場合があります）、部屋を急いで片付ける必要はありません。なお、教員・学生ともに、ビデオは必須としません。

- 3) ITC-LMS（本学学習管理システム）

シラバス・成績管理システムである UTAS と同様に UTokyo アカウントでログインしま

す。レジュメや諸資料を事前にファイルで配布したりアンケートを取ったりすることができません。ただし、資料については著作権に十分ご注意ください。

6. おわりに

今回の事態によって、東京大学、なかでも1・2年生の全員を預かる教養学部、世界の様々な地域から学生が集まる総合文化研究科は、東日本大震災以来の大きな危機に直面しております。これを乗り越えるためには、先生方一人一人のご協力がどうしても欠かせません。私の周囲でもオンライン授業の経験がほとんどない方も多いこともあり、先生方のご不安は察するに余りあるものがあります。しかしながら、不屈の精神で難関を突破してきた大変優秀な学生が先生方の授業を待っています。先生方には、彼ら／彼女らのケアをお願いすることになる一方で、これまでのように、彼ら／彼女らはきっと私たちを助けてくれ、オンラインを通して得られるものも決して少なくないはずです。本研究科・学部として最大限サポートさせていただきますので、こうした困難のなかでも、学問の真髄を伝えていただくための準備をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院総合文化研究科長・教養学部長
太田 邦史